

国

連では、安保理改革も重要だが、ミレニアム開発目標(MDGs)という。2000年に合意された貧困削減目標)のほうも、もつと重要だという国も少なくない。安保理改革に大きな利害を有しているのは、日独印など常任理事国になりた国と、イタリアやパキスタンのように、これに反対したい国、合計10数カ国である。しかし、加盟国の多くは途上国だから、MDGsに関心が高いのは当然だろう。これに向けた報告書を書いたのが、コロンビア大学のジェフリー・サックス教授である。この報告書は、先進国に対して、GDP 0・7%の開発援助をするよう要請していて、日本(0・2%ほどで、アメリカとともに豊かな国のなかでは最低クラス)にとつては痛いところだ。これは簡単にはカバーできないので、日本としては、いろいろ別のところで、その貢献ぶ

りを主張している。

サックス教授とは半年ほど前から親しくしている。1月には、アフリカのマラリアを防ぐためには、日本のS社の蚊帳(特殊な薬を塗ったもの)がよいので、その提供に協力してほしいといってきた。私も名案だと思って、いろいろ協力してきた。

こうした手法は、数日後に発表された彼の報告書のなかで、クイック・ウインという名前と呼ばれている。そしてそのトップに、蚊帳の話が書いてある。報告書に関する最初の討論で、早速私は発言し、クイック・ウイン、とくに蚊帳の話などを賞賛したのは、もちろんである。

こうした問題で、アメリカがすごいのは、民間の資金を動員していくやり方である。先日、ダボス会議で女優のシャロン・ストーンが呼びかけたら、たちまち1億円集まったという。サックス教授は、

今度はセネガルで、同国出身のユッスー・ンドゥールというグラミー賞受賞の歌手をフィーチャーして、大きなイベントを開く。それは世界に放送される。日本のS社の幹部も行くと聞く。ンドゥールは、俳句にも興味があるらしく、セネガルの日本大使館にも何度か来たことがあるという。

ところで、1月にサックス教授から蚊帳の話聞いて以来、妻は日本もNGOを巻き込んだ運動をすべきだといひ、調べたところ、

すでに吹浦忠正氏らが、「難民を助ける会」で蚊帳を配られていることがわかった。それを見たいというので、妻は一人でセネガルに行くことになった(もちろん私費で)。電通に勤めていたので、こういう話には血が騒ぐのだろうか。それにしても、次々に話がひろがることに、驚いている。●

日本の蚊帳へ行く

きたおかしんいち
北岡伸一

国連日本政府代表部特命全権大使

をちこち散歩

@Senegal